

オーストラリア・ユララでの部分日食……それにハレー彗星

明大天文部OB会 松本 孝

ハレー彗星をみるなら南の国が条件がよく、新月近くの方がさらにいいこと
になります。4月9日にオーストラリアに遠征したグループには、部分日食
(=新月)もみられるおまけもつきました。ここでは「天文セミナー」№85
から松本孝さんの記録を転載させていただきました。 — 編集部 —

1985年の暮れ頃からのハレー彗星に対するマスコミの取り上げ方や、世間の関心の高さは異常とも思える程でした。とくに、わざわざオーストラリアまで出掛けてコンサートを開くに至っては少し行き過ぎの様な気がします。しかし、そうしたものに便乗して休暇を取ることの出来たサラリーマンとしては好都合だったと言えるかもしれません。

明治大学天文部ではハレー彗星観測ツアーと称して4月5日から12日にかけてオーストラリアの中央部にあるアリス・スプリングスとユララに行きました。現役の学生とOB、それに五藤光学の方も加わり総勢24名です。観測ツアーと言っても参加者の目的は様々でした。文字通りハレー彗星を観測しに来た者、ただハレー彗星を見に来た者、南天の星座を撮りに来た者、さらにはコアラやカンガルーなどを見たくて来た者などです。共通の目的と言えばエアーズ・ロックに登って頂上で校歌を歌うことぐらいでしょうか。この目的だけは、どこにも迷惑をかけずに達成できました。

ところで、このツアーの目的のなかに部分日食を加えた者は僅かでした。なかには部分日食のあることさえも知らなかった者がいたようです。1983年の皆既日食を経験したメンバーも多かったので少しは関心があると思っていました。皆既でない日食には興味がないということかも知れません。

今回の日食はオーストラリア大陸を中心に、ニューギニアと南極大陸の一部で見られるものでした。もちろん皆既帯はありません。オーストラリアでは緯度の高い地方のほうが食分が大きくなっています。オーストラリア北部にあるケアンズでは最大食分が0.32なのに対して、そこから南に下がった所にあるブリスベンでは0.51になります。さらに南にあるシドニーでは最大食分が0.62となります。また、オーストラリアの中部から東側の地域では日食の終わらないうちに日没となります。ハレー彗星の観測者が多く集まったシドニー付近では食の最大から30分ぐらいで日没となってしまったはずですが。地上の風景を入れて日食の連続写真を撮るには都合がよかったかも知れません。一方、我々の訪れたユララはオーストラリアの中央に位置しています。シドニーよりは北にありますので最大食分は0.45でした。しかし、シドニーよりはずっと西に位置しているために日食の始めから終わりまで見ることができました。ユララでは日食が終った時の太陽高度は10度です。ユララでの日食の予報は次のとおりです。時間は日本標準時になっ

ています。

食の始め	15時06分	高度37度
食の最大(食分0.45)	16時19分	高度23度
食の終わり	17時23分	高度10度

ユララの日食を予報してみると、食の最大の頃はユララからアリス・スプリングスに戻る飛行機の出発時間になっています。スケジュールの変更は不可能でしたので、望遠鏡による日食の写真撮影はあきらめることになりました。そこで、移動中や飛行機内からでも可能な望遠レンズによる手持ち撮影を試みることにしました。ただ、ユララからアリス・スプリングスの飛行コースでは太陽は機内から左後方に見えることになり、機内からの撮影が可能かどうか問題がありました。しかし、せっかくのチャンスですので出来るだけ努力してみることにしました。

4月9日は雲ひとつない好天の中で迎えることができました。実は、我々がアリス・スプリングスに着いた4月7日からはずっと晴天が続いていたのです。ここは砂漠地帯なのでこうした天気が当たり前だと思っていました。なかには、雲が見たいなどと不謹慎なことを言い出す者さえ居たぐらいです。この日は、早朝に念願のエアーズ・ロックの登山を終えて満足感にひたっていました。しかも、天気を心配することもなく2晩もハレー彗星を見ることができたので旅行の目的は終えたような気分になっていました。これで、日食の写真が撮れば文句のないところです。

ユララでは日中の気温が30度以上にもなり、日差しは焼けつくような暑さです。ホテルの玄関前で日食の始まるのを待ちながら太陽を見上げていると、3年前のインドネシアの日食を思い出します。あの時は、日差しの中にいるとめまいがするくらいの暑さでした。ここでは、それ程ひどい暑さではありません。そのかわり、ハエにはひどく悩まされました。日本のハエと違ってやたらと体にまとわりついてくるのです。食卓に並んだ料理に群がる、あの執ようさで人間にまとわりついてきます。ここでは人間がハエの餌なのでしょう。とにかく、ハエに顔の上を歩き回られるのは嫌なものです。そこで、ホテルの外にいる時にはいつもハエを追い払ってなければなりません。しかし、カメラのファインダーを覗いているときは両手がふさがっているので、ハエは勝手に顔の上を歩き回ることになります。とても腹立たしいものでした。そこで言い訳になりますが、とても第一接触を確認する冷静さはありませんでした。もっとも、カメラのファインダーからでは正確に見ることはできなかったと思います。

第一接触から5分後にはカメラのファインダーでも欠け始めたのが分かりました。その前に、肉眼で見ていた蘭山君が欠けているのが分かると言っていました。ですから、カメラを三脚に据えつけて凝視していればもっと早く確認できたと思います。写真は第一接触の5分前から5分間隔で撮る予定でした。ところが、肝心の第一接触の時間だけシャッターを切り忘れてしまいました。やはり冷静さを欠いていたと思います。ホテルの玄関前で数回シャッターを切ったあとバスに乗り込みました。ホテルから車で20分ほどの所にエアーズ・ロック飛行場があります。日本時間で16時15分に飛行機が出発する予定でした。バスの中では3度ほどシャッターを切った

と思います。そのうち1度だけ太陽の方向が悪くてバスの窓ガラスを通してシャッターを切りました。それが15時36分の写真です。露出が少しアンダーになっています。それにしても、何と大変な日食観測になったものです。しかも、この後に日食観測はドラマチックな最後を迎えることになりました。

バスの中から南西の方向に雲が見えました。地平線の近くにある小さい雲でしたが、雲が見えると言って珍しそうに眺めていました。たった3日間ですが、ずっと快晴に恵まれていたのでそ

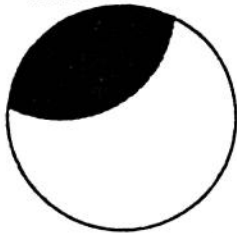
1986年4月9日の部分日食

観測地点: Alice Springs

東経: +133.88333°

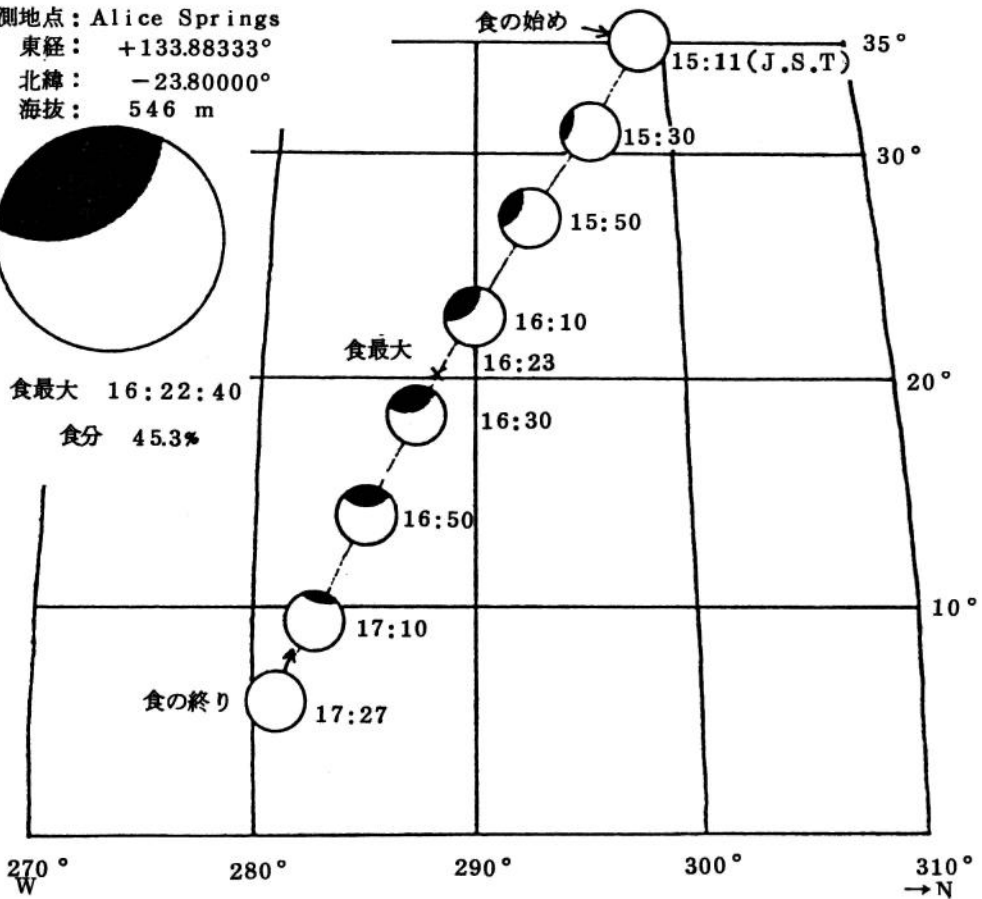
北緯: -23.80000°

海拔: 546 m



食最大 16:22:40

食分 45.3%



んな気持ちになっていました。ところが、飛行機でアリス・スプリングスに近づくとつれて雲が増えはじめて、それがだんだんと不安になってきました。結局、この日の夜は曇りで観測ができませんでした。砂漠地帯だからいつも晴れていると思うのは間違いでした。

エアーズ・ロック飛行場に着くとホテルよりも多いハエの群れでした。白いシャツが黒く見えるぐらい集まってきました。このハエは飛行場の待合室にはあまり入ってこないようです。冷房のせい、あるいは自動扉のせいなのかよく分かりません。とにかく、建物の中にいるとあの忌まわしいハエからは解放されます。そこで、時間がくると外に出て写真を撮り、すぐに待合室に戻るという横着な観測をしていました。

そとで写真を撮っているとオーストラリアの人が何をしているのかと尋ねてきます。日食だと言ってファインダーを覗かせると喜んでくれました。ほとんどの人は日食のあることを知らなかったようです。しかし、なかには知識のある人がいてピンホールで太陽像を作り一緒にいた人に一生懸命に説明していました。ところが、その太陽像を私の背中に作るものですから、動くことができずに困ってしまいました。私は少しでも早くハエから逃れる為に待合室に戻りたいのですが。

出発時間になっても飛行機の飛び立つ様子がありません。どうやらアリス・スプリングスからの便が大幅に遅れているようでした。我々の乗る飛行機はこの折り返し便になっていました。おかげで、食の最大は飛行機の中でなく地上で迎えることができました。あらためて外を見回してみると、全体に灰色のフィルターをかけたような何か重苦しい雰囲気を感じました。インドネシアではこんな雰囲気だったのだと思い出しました。かなり光が弱くなったような気がします。しかし、食分が0.45でこんなに暗くなるのかなと思って太陽を見上げて見ました。太陽はかなり西に傾いていたので、日食のせいばかりではないだろうという気がしました。

飛行機はかなり遅れそうでした。こうなれば、食の終わりの17時23分まで遅れてくれればよいと願っていました。皆は早く来ないものかと待ちわびていました。私ひとりだけ反対のことを考えていたわけです。そのうちに、飛行機の機影が見えたかと思ったら、あっという間にジェット機が降りてきました。それまで静かだった待合室が急に騒がしくなりました。そして、アリス・スプリングスからの観光客が大勢やってきました。この飛行機が出発するには整備とか準備でまだ時間がかかるだろうと思っていました。だから、どうにか食の終わりに間に合いそうな気がしました。ところが、以外に早く飛行機に乗ることになってしまいました。17時00分の写真は飛行機に乗り込む直前に撮ったものです。17時10分の写真は飛び立つ間に機内から写しました。機内で撮影することを考えて、あらかじめ窓際の席になるようお願いしてありました。あと1コマ撮れれば完成だと思っていましたが、飛行機は離陸してしまいました。ところが、飛行機は最初に北に進路を取ったために太陽を横から見ることができました。そこで、最後にシャッターを切ったのが17時18分の写真です。それから間もなく、飛行機は右に旋回して東に向かいました。そして、太陽は後ろの地平線の方に行ってしまったのです。